

シジュウカラの言語能力と動物言語学の挑戦

Animal linguistics: Elements of language in the vocal communication of Japanese tits

鈴木俊貴

Toshitaka Suzuki

京都大学白眉センター・特定助教

京都大学創発 PI

The Hakubi Center for Advanced Research, Kyoto University, JST FOREST

概要

アリストテレスの時代から、「言語」はヒトと動物を隔てる決定的な性質であると考えられてきました。私たち人間は、単語を用いて物事を示したり、それらを組み合わせて文章をつくり会話しますが、動物の鳴き声は単なる感情の表れにすぎないと捉えられてきたのです。しかし、この二分は本当に正しいのでしょうか？ たしかに、感情を伝える音声だけでもうまく意思疎通がとれる動物もいるのですが、研究者たちは動物たちのコミュニケーションをどれほど詳細に解明できているのでしょうか？ 私は、この疑問を胸に、シジュウカラの鳴き声について研究を続けてきました。

シジュウカラは都市部から山地まで広く見られる私たちに身近な野鳥です。15年以上にわたる野外研究の成果として、シジュウカラは捕食者の種類を示したり仲間を集めたりするための様々な鳴き声をもつことがわかってきました。さらに、彼らはこれらの鳴き声を組み合わせ、より複雑なメッセージ作ることまでできるのです。

さらに、野外において認知実験をおこなうことで、聞き手のシジュウカラは、鳴き声の示す対象をイメージしたり、音列に文法のルールを当てはめることで情報を読み解いていることもわかってきました。これらの発見は、私たちが普段会話のなかで使っている認知能力を動物において初めて実証した成果であり、言語の進化に迫る上でも大きな糸口を与えるはずです。

本講演では、上記の研究内容を紹介しながら、野外観察や行動実験から動物たちの豊かな会話の世界にどのように迫れるのか、その新たな学問の枠組み（動物言語学）についてもご紹介したいと思います。